

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ

ALESCO

No.21

February 2023

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

- 02… 写真で綴るキャンパスライフ
- 04… 保健学科長挨拶
- 05… 卒業生だより
 - 看護師として活躍する卒業生
 - 臨床検査技師として活躍する卒業生
- 06… 看護学専攻 各講座のトピックス
- 08… 検査技術科学専攻 各講座のトピックス
- 09… 認知症予防学講座 新任教員紹介
- 10… 教育活動 大学院生の研究紹介
- 11… 学術・研究活動
 - 令和4年度学長裁量経費大学改革推進経費事業
プロジェクト名：DXの力で看護学教育をアップデート
with/after コロナ時代におけるシミュレーション教育のNewステージ
 - 臨床研究と基礎研究の両面から
- 12… 地域貢献活動
 - 大山健康プロジェクト
 - 脳とからだのすこやかチェック
- 13… 新任・退職教員からのメッセージ
- 15… 令和4年度卒業研究演題一覧
- 16… 令和5年度学級委員
- 16… 令和3年度後援会事業報告・令和4年度後援会役員名簿
- 16… 令和4年度後援会事業計画・編集後記



写真で綴るキャンパスライフ

～保健学科の学生たちを学年ごとに紹介します～

1年生



検査 新入生オリエンテーション



検査「栄養と代謝」講義(看護、生命と合同)

検査：1年間湖山キャンパスで教養と専門科目の一部を学びます。

看護：半年間は湖山キャンパスのみですが、後期から米子キャンパスへ渡米が始まります。ユニフォーム浴が初々しい!



看護 実習オリエンテーション



看護 看護実践過程基盤演習

2年生



検査 病理検査学実習

米子キャンパスの生活が始まった2年生。専門教育に興味津々です。



看護 老年看護学演習 タッチケア体験



看護 VR 体験授業



看護 VR 認知症体験授業

3年生



検査 病態血液学実習I

実習で多忙な3年生。座学と実践を結びつける学習がメインです。



看護 日南町カンファレンス



検査 病態生理情報検査学実習I



看護 公衆衛生看護学実習健康教育教材づくり

4年生



検査 課題研究発表会



看護 課題研究発表会 基礎看護学講座



検査 課題研究発表会



看護 統合実習 シミュレーション学習

課題研究、統合実習、大学生活の集大成です。

保健学科長挨拶

新しい教育カリキュラムで保健学科を未来につなぐ

保健学科長 深田 美香



平成12年4月に第1期入学生を迎えた保健学科は、この春には、第20期卒業生を送り出します。学部学生2,300名、大学院生350名を超える卒業生、修了生が学び舎を旅立ち、保健、医療、福祉、教育の場で広く活躍しています。このように保健学科が社会的使命を果たすことができているのも、卒業生、修了生の皆様、そして、保護者、後援会、同窓会の皆様のご支援、ご協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。

さて、令和4年度から看護学専攻、検査技術科学専攻ともに、人間理解や倫理的能力の獲得、課題解決能力、科学的探究能力の獲得を目指した新しいカリキュラムによる教育を開始しています。少子高齢化が一層進む中で、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステム構築の推進に向け、社会の変化に応じた適切な医療提供体制の整備が必要とされています。また、医療・介護分野においても、様々な情報通信技術の導入が急速に進んできています。

看護職員の就業場所は、医療機関に限らず在宅や施設等へ広がっており、多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉サービスを提供することが期待されており、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められています。看護学専攻では、看護の対象者を生活者としてとらえ、その人の最適な健康状態をめざして、24時間の生活の営みをいつでもどこでも支え続け、キュアとケアを統合した実践を創り出すことができる能力獲得のため、各科目のつながりを重視した教育を準備しました。

一方、検査技術科学専攻では、チーム医療推進による医療現場での臨床検査技師の業務拡大などにより、教育内容が大幅に見直されました。医療行為の中で臨床検査技師が可能であった行為は採血や生理検査等の一部に限られていました。しかし、「臨床検査技師等に関する法律」が一部改正され、侵襲を伴う多くの行為が可能になることに伴い、新たに習得を求められる知識や技術が大幅に増えました。さらに、臨地実習前評価の実施や臨地実習調整者の配置などによって、臨地実習教育の質向上も目指します。医療全体の中で臨床検査技師の業務範囲が拡大することは、将来的に臨床検査技師の職域確保と専門性や地位向上に必ず繋がると考えられます。

学生の学修システムにも新たな試みが始まります。本学の高等教育開発センターでは、学生の学修成果の収集や分析だけでなく、学修成果の有益な可視化を図るため、LMS（Learning Management System）-eポートフォリオシステムの構築を進めています。学修成果を可視化し提示することで、学生は自身の成長を感じ、主体的な学びを実現することができます。また、大学側も学修成果に基づいて教育活動及びカリキュラムの改善や学生本位の教育システムの構築ができることが期待されます。

卒業生、修了生と築いてきた歩みを大切に、30周年に向けて持続的な発展をお約束し、保健学科が今後も学生、卒業生、市民の方をはじめとするすべての関係者の皆さまに愛され、夢のある魅力あふれる大学であり続けるために構成員一同、より一層の努力を重ねてまいります。引き続き、皆さまのあたたかなご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



卒業生だより

看護師として活躍する卒業生

檜垣 隆春 さん 看護学専攻 第5期生

病棟での勤務やケアマネジャーの経験から、疾患や障害を抱えた方でも、目標や楽しみを持って地域で生活してほしいという想いが強くなり、現在は神戸市内に開設した、プラスト訪問看護ステーションで管理者として働いています。

週に数回、限られた時間の中で、患者様のバックグラウンドや生活の全体像を把握し、必要なサービスを提供していく訪問看護の仕事は、従事して8年経った今でも、難しいと思うことばかりです。医療や介護に従事する者の都合を押し付けていないか、知らず知らずのうちに諦めさせていることがないか、常に俯瞰して考えることが出来る看護師になれるよう努力するとともに、そんな看護師を育成していければと思っています。

今後も在宅医療のニーズはますます高まると思われます。社会資源の一つとして、必要とする方に、高い水準のサービスが行き渡る社会を目指し、活動していきます。

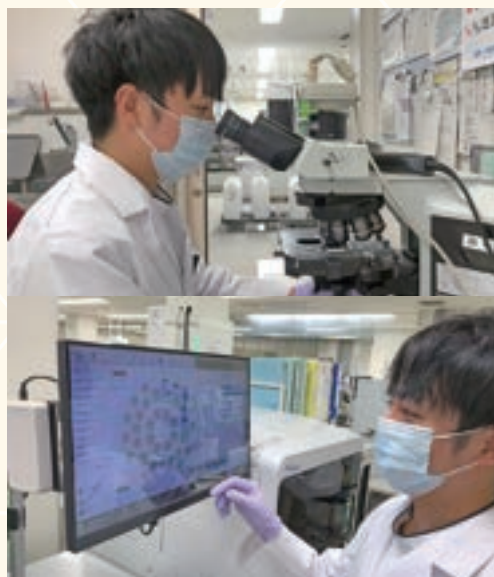


卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

岩本 拓也 さん 検査技術科学専攻 第15期生

検査技術科学専攻第15期生の岩本拓也と申します。現在、臨床検査技師として鳥取大学医学部附属病院の血液部門で働いており、血液一般検査、末梢血液像検査、凝固・線溶検査に携わっています。以前まで慢性期病院に勤めており、大学病院に入ってから業務に慣れるまで大変でした。大学病院では検査数が多い分、様々な症例を経験でき今ではとてもやりがいを感じながら働いています。また、大学病院ではルーチン業務だけでなく研究活動もしやすい環境であり学会発表、論文投稿を目標に研究活動にも励んでいます。研究活動はほとんど経験がなかったのですが先輩がとても親身になり指導してくれるおかげで日々得るものがあります。今後は血液学の資格取得を目標に自己研鑽に努めていきたいです。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

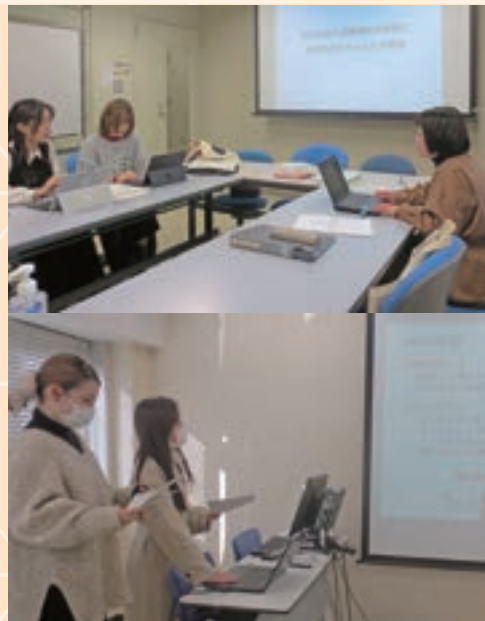
基礎看護学講座

◆看護学生がこころを育む過程を支援する

山本 陽子

看護学生のコミュニケーションスキルやメンタルヘルスをテーマに、看護学課題研究と統合実習を担当しています。今年度は精神行動医学の先生方のご協力のもと「看護学生の過剰適応と援助要請の関連」という研究課題に取り組んでいます。学生の過剰適応を予防するためには、どのような教育的支援が必要なのか、学生独自の視点を取り入れながら模索しています。

人はこころによって自らの思考を捉え、その在りように向き合っています。看護学を通じて「学生は何を捉え、感じ、考えているのか?学生がこころを育む過程に、教員として寄り添い支援できているのか?」学生と共に学びながら、常に自らに問い掛けています。



成人・老人看護学講座

◆体験から学ぶ看護学実習

長谷川慶幸

老年看護学実習では、体験から学び、学生自身が考えることができるよう実際に施設や病院に行き、患者さん、利用者さんと関わることに加え、シミュレーターや補助具などを使用して実習を行っています。実際に施設などで使用されている物品を手にとることで、患者さん、利用者さんの生活をイメージし、考えることにも繋がっていると思います。また麻痺がある方の体の動かし方についてなども体験しながら試行錯誤しており、そういった経験が現場で患者さん、利用者さんと関わる際に活かされると思います。体験から学生自身が感じたことを大切に看護について学んでいってもらえたらと思います。



母性・小児家族看護学講座

◆幅広く看護教育に携わることができることに感謝

服部 多恵

大学教育に携わり2年目、まだ不慣れな点もありますが、学生に教えることの難しさと楽しさを実感しながら日々を過ごしています。3年生からの母性・小児領域の演習、実習で学生と関わる機会が増えてきます。妊娠・出産・その後の育児…学生が講義で学んだことを実践へとつなげていく過程で、自分の経験を活かして学生に伝えていくことにやりがいを感じています。今年度後期からは1年生の実習にも携わることができ、私自身もフレッシュな刺激を受けています。基礎看護、小児看護、母性看護、助産と幅広く教育に携わることができること、学生実習を通して私もいろんな方とつながっていけることに感謝しながら大学教育を続けていきたいと思えます。



地域・精神看護学講座

◆学びの大きいステーション実習

雑賀 倫子

在宅看護学実習では、コロナウイルス感染拡大によりステーション実習と学内でのロールプレイを中心に行っています。ステーション実習は様々な制限もありますが、ステーションの方々、利用者さんのご理解・ご協力により訪問に同行しています。訪問看護師との同行訪問では、緊張しながらも看護師のコミュニケーション技術に感動したり、利用者さんから声をかけてもらえたと喜んだり、もっと意図的な観察をすればよかったと反省したりと短い時間でも学生は多くのことを感じ、学んでいます。従来よりもステーション実習は短いですが、訪問看護の魅力を感じてくる学生は多いです。



訪問看護師さんと訪問先へ向かいます



車に乗って出発です



ロールプレイで脈拍測定

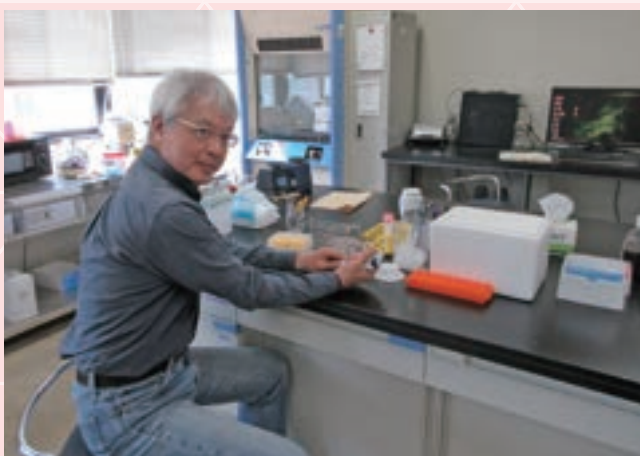
検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

生体制御学講座

◆NPCの病態生理の研究

二宮 治明

研究のテーマはニーマン・ピック病 C 型 (NPC) です。NPC は遺伝性のリポドーシスのひとつであり、その遺伝子型と表現型は詳細に記載されていますが、基本的な問題の答えは謎のままです。すなわち、原因遺伝子 NPC1 の機能はいったい何なのか。その欠損がどうして脂質輸送障害と神経細胞死を引き起こすのか。遺伝性疾患の治療を考えると、遺伝子治療ないし幹細胞治療しかありえないというのは正しい。残念ながら、これらの治療法がそもそも可能なのかどうかは今の私たちにはわかりません。そういう状況下で、病態を理解することを目指しています。その過程で、すこしでも患児の benefit になる情報が得られれば、と思います。



病態検査学講座

◆検体検査学実習の紹介

石黒 尚子

2年生後期の検体検査学実習では、尿や便、髄液検査などの一般検査に関する実習を実施しています。実習では、尿など実際の生体材料を用いた検査も行っています。2年生前期までは基本的な実験操作を学ぶ実習が中心となっており、生体材料を用いた実習は初めてという学生さんも多くいます。そのため、最初は検体の取扱いに戸惑う様子もみられますが、実習の回数を重ねていくと、検体の扱いにも慣れて手際も良くなってきます。検査を実施する上で、検体の適切な取扱い方法や操作の原理・手順を理解することは重要です。実習を通じて、生体材料や機器の取扱い、一般検査の検査法に関する知識を深めることを目指しています。



認知症予防学講座

新任教員紹介

認知症予防学講座 浦上 克哉

このたび認知症予防学講座（寄付講座）の教授に就任した浦上克哉と申します。

日本は2025年に認知症患者数が700万人を超えると推計されています。これは、65歳以上の5人に1人は認知症という状態であり、予防は急務であります。これは日本だけの課題ではなく世界的な課題であり、世界では3秒に1人の割合で認知症患者が発症しています。そのような課題に取り組むことに賛同して小林製薬株式会社様からご寄付を頂き本講座を開講することができました。

本講座の取り組みとして教育、研究、地域貢献を3本柱としております。教育では認知症予防に携わることのできる人材を育成するため学部教育である疾病論、大学院教育の認知症予防学特論と演習等の講義を担当します。研究では認知症の前段階の早期発見のツール開発および予防法の開発を行います。さらに、地域での認知症予防の取り組みの支援や啓発活動を行います。また、私が代表理事を務めております一般社団法人日本認知症予防学会とも連携していきたいと考えております。

何卒、宜しくお願い致します。



地域貢献賞の表彰式



研究室メンバーの集合写真

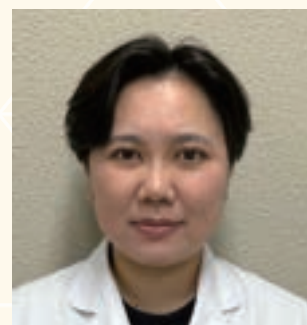


第11回日本認知症予防学会での講演風景(福岡国際会議場)

新任教員紹介

認知症予防学講座 下田 有紀

この度は皆様にご挨拶できる機会を頂いてありがとうございます。2022年4月に保健学科認知症予防学講座（寄附講座）に着任いたしました、下田有紀と申します。もともと鳥取大学の生命科学科出身で、免疫学の方面からアルツハイマー型認知症の基礎研究を行ってまいりました。認知症予防学講座では実際に患者さんと接し、さらに地域に出向いての研究もさせていただけるということで、これまで携わってきた基礎研究と合わせて多方面から認知症予防の研究をしていければと考えています。また



来年も花が咲きますように

「認知症は予防できる」という概念の普及

啓発に取り組み、認知症を発症しないようにする、あるいは発症や進行を遅らせて健康寿命を延ばす一助となればうれしいです。

なにぶん不慣れなことも多く、皆様にご助言、ご助力をお願いすることもあるかと存じますが、その折はどうかよろしく願いいたします。

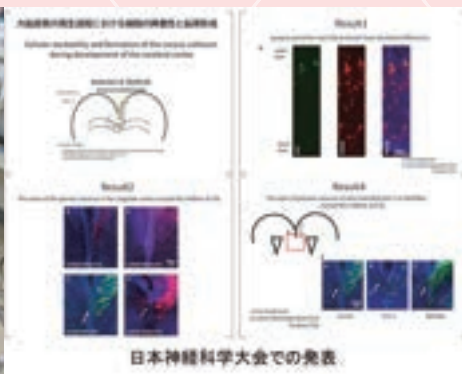
教育活動

大学院生の研究紹介

神経細胞新生のメカニズムの解明を目指して

医科学専攻博士前期課程2年
大田 麗

私たちの研究室では、マウスをモデル動物として用いることで、「神経発生学」の研究に取り組んでいます。ヒトを含む哺乳類の脳では、胎仔から生後・大人に至るまで、脳の一部に神経幹細胞が存在しています。この細胞から、新しい細胞が作られることによって、脳が形成され、正しく機能することができます。私は、その仕組みを胎仔から大人のマウスまで時系列的に観察し、神経細胞新生のメカニズムの解析を進めています。大学院では、学部生の学びをさらに発展させて動物実験（マウス）や免疫染色などの様々な実験技術を経験できています。これらの研究の一部を「大脳皮質の発生過程における細胞の興奮性と脳梁形成」というタイトルで、日本神経科学大会において成果発表できました。今後の再生医療の発展に少しでも貢献できるような研究に取り組んでいます。



大学院での学び

医科学専攻博士前期課程2年
湊 恵

私は鳥取大学医学部保健学科看護学専攻の3期生です。鳥大病院で働き、途中3人の子どもの育児を挟みながら助産師として働いています。現在はNICUに勤務しております。2021年度に鳥取大学大学院医科学専攻博士前期課程に入学しました。育児も仕事もしながら大学院なんて無茶だなと思いつつも自分がやりたかった医療的ケア児の研究ができ、知識を深めることができたことは、今となっては「あの時無茶して良かったな」と思えます。最近、臨床心理士さんに「湊さんっておもしろいですね。」と言っていたことがとても嬉しかったです。患者さんやスタッフ、皆に笑顔届けられる「おもしろい看護師」を目指して、頑張りたいです。



学術・研究活動

令和4年度学長裁量経費大学改革推進経費事業

プロジェクト名：DXの力で看護学教育をアップデート with/after コロナ時代におけるシミュレーション教育のNewステージ

成人・老人看護学講座 三好 陽子

本事業では、最新の「プロジェクション型 VR システム」を実習室に設置しました。これにより、夜間の一般病棟や災害医療現場など通常は体験できない臨床現場を再現できます。VR 体験中の映像は、実際の音響とともに壁全面に実寸大で投影され、臨床現場をリアルに再現した空間で、体験の共有が可能となります。

「看護教育用 VR 教材」7領域を導入しました。模擬患者では再現不可能な侵襲性のあるシナリオも再現でき、繰り返しトレーニングにも応用できるフル CG をベースとしたインタラクティブなコンテンツです。

「VR 認知症体験授業」では、当事者体験によって認知症者への理解を深める学習を行いました。次世代型教育ツールを用いた学習方略によって、適切な看護を実践するために必要な知識・技術の定着と医療人としての態度を養い、「論理的・創造的に解決し続ける能力」を養う教育をめざしています。



VR 認知症体験授業



プロジェクション型 VR システム

臨床研究と基礎研究の両面から

病態検査学講座 臼井 真一

研究テーマは肥満、糖尿病、脂肪肝、動脈硬化、脂質異常症などです。これらの病気は食生活や運動などの影響を受けやすく、互いに密接に関連しており、生活習慣の改善による予防や早期発見が重要と考えられています。研究室では、患者さんの血液を分析して他の診療記録との関連を調べる臨床研究を行うと同時に、臨床研究で生じた疑問やヒントを解明すべく、実験動物や細胞培養を用いた基礎研究を行っています。特に最近では、高脂肪食を与えて作製した脂肪肝モデル動物を用いて、脂肪肝の線維化メカニズムに関連する研究を行っています。これらの研究を通じて、生活習慣病の予防や新しい検査技術開発への貢献を目指しています。



地域貢献活動

大山健康プロジェクト

地域・精神看護学講座 金田由紀子

大山町の「まちづくり大山」という自治組織と保健学科、医学科と協働して、平成28年より取り組んでいます。目指すは『健康で安心して暮らせるまちづくり』です。内容は、学生と共に各集落を巡回し、座談会を通じて住民の方々と交流を重ねる中で、地区の自慢といった強みや課題を明らかにしています。参加した学生は、住民の方々の地区への愛着や誇りを感じ、日々の暮らしの中に医療や看護が溶け込んでいることに感銘を受けています。コロナ禍で健康講座が取り止めとなり、活動が制限されていますが、感染対策をしながらのインタビューを実施する等、生の声に耳を傾け、行政、診療所とも連携し、まちづくりに貢献していきたいと思えます。



大山賛歌体操と一緒に



役員さんへのインタビューの様子



座談会

脳とからだのすこやかチェック

生体制御学講座 河月 稔

今年度より琴浦町のご年配の方々の集いの場に伺って認知機能検査や身体機能検査などを行う“脳とからだのすこやかチェック”を実施しています。検査は研究室所属の検査技術科学専攻4年生と一緒にっており、学生には検査を通じて責任感やコミュニケーション能力を高めてもらっています。最終的にはすこやかチェックで得られたデータから健康増進に向けた対策の在り方を検討し、成果を住民の皆様へ還元していきたいと考えています。また、検査とは別に住民の方々との交流として運動や知的活動に関するレクリエーションを行いました。参加者からは楽しかったという声が聞かれ、地域に出向いて勉強してきたことを実践してくれた学生を頼もしく思いました。



認知機能検査のブース



学内での指導の様子



学生によるレクリエーション

新任・退職職員からのメッセージ

世界での活躍を期待しています

基礎看護学講座 萩野 浩

私は2008年に保健学科教授に着任いたしました。その後15年間にわたり、たくさんの学部学生、大学院生の皆さんと時間を過ごすことができましたことに、心から感謝申し上げます。2020年に起こったCOVID-19パンデミックはあっという間に教育現場にも影響し、世界が狭くなったことを思い知らされました。そんな中でもたくましく成長していく若者の姿を見ることができたのはたいへんな幸せでした。様々な方といっしょに楽しく実施した「人」を中心に据えた、たくさんの研究は、ひとつひとつが私のなかで宝石のように輝いています。



わが国ではこれからも医療・介護の世界が変化し続けます。日本の将来を担う学生の皆さんが、鳥取大学で伸び伸びと学び、巣立って、日本中で、そして世界で活躍していただくのを心から願っています。最後に、在任期間中に教職員の皆様から賜りましたご高配に心から御礼申し上げます。

退任のご挨拶

地域・精神看護学講座 吉岡 伸一

平成18年4月に鳥取大学医学部精神行動医学分野から医学部保健学科地域・精神看護学講座に異動し、教育、研究、臨床に17年間努めてまいりました。

学部教育については精神看護学を主として担い、大学院教育については博士前期・後期課程の講義や研究指導などを担当してきました。学部学生との課題研究、大学院生の論文指導を通し、多くのことを学ぶことができ、感謝しております。大学院では専門看護師コース開設に向け、多くの人的ご支援を賜りました。



保健学科へ色々な思いをもち異動しましたが、てんかんのある人を対象とした社会精神医学研究を継続し、国内外で研究発表を行うことができました。幾分か社会に貢献できたのではないかと考えております。

看護教育は新カリが始まり、新たなスタートを迎えました。様々な職種との垣根を越え、良い人材が輩出されること、祈念しております。長年お世話になりました皆様に感謝申し上げます。

退任のご挨拶

母性・小児家族看護学講座 花木 啓一

保健学科の在学生、卒業生、後援会、現・旧教職員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

私事ですが、令和4年（2022年）12月末に保健学科を退任しましたのでご報告申し上げます。私は、平成17年に鳥取大学医学部周産期・小児医学分野から母性・小児家族看護学講座へ転任し、以後17年余にわたって小児看護、小児保健等を担当させて頂きました。この間、ここアレスコ棟で、学生の皆さん、大学院生の皆さんと一緒に学び、教職員の皆さんと鳥取大学の教育・研究を発展させるべく一緒に汗を流すことができました。このことは、私の40年余りの鳥取大学とその関連施設における教職員人生のなかでも最も充実し実りある経験であり、私の大切な財産になりました。長い間、保健学科でご一緒させて頂き、お世話になりました皆様に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

最後になりましたが、皆様の今後益々のご健勝ご発展と保健学科の更なる充実を祈念申し上げます。



新任教員紹介

母性・小児家族看護学講座 山崎 歩

令和4年4月より鳥取大学医学部保健学科 母性・小児家族看護学講座に着任いたしました山崎歩と申します。前年度までは、大阪府内の大学において小児看護学の教育・研究に携わって参りました。学生の頃より1型糖尿病の子どもと家族への支援・研究を継続しております。慢性疾患をもちつつ日常生活をおくり成長していく子ども、なかでも療養行動の自立を控えた思春期・青年期の患者のもつ力が発揮できる効果的支援方法について検討を行っていています。

鳥取大学医学部には、看護学専攻以外にも臨床検査学や医学、心理学といった多様な専門分野がございます。それぞれの専門分野と連携・協働しつつ少子化が進む社会の中での子どもの健康増進や疾患をもつ子どもへの支援について学生とともに考えていくことが出来ればと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



令和4年度 卒業研究演題一覧

基礎看護学講座

1. 運動器疾患を有する高齢患者における QOL と疼痛の関連性
2. 高齢運動器疾患患者の転倒恐怖感に影響を与える要因の検討
3. 看護学生の共感性とコミュニケーションスキルの関連
4. 臨床試験において被験者をいかに守るか ―その歴史と課題―
5. 遺伝性疾患の告知に対する親の思いと子の認識および医療者の支援に関する文献検討
6. 慢性腰痛患者のセルフケア支援 ―テキストマイニングを用いた職種による特徴の検討―
7. 2型糖尿病患者の食事療法に関するニードの文献研究
8. 看護学生の過剰適応の程度と援助要請スタイルの関連

成人・老人看護学講座

1. インストラクショナルデザインの原理を活用した看護師国家試験対策セミナーの有効性の検討
2. 救急領域での終末期ケアにおける看護師の心理状態
3. 日本における高齢者と ICT に関する研究の動向と課題 ― KH Coder による計量テキストマイニング―
4. 乳がん患者が抱く子どもへの告知に対する思い
5. わが国の急性期にある脳血管疾患患者の家族の体験に関する文献検討
6. FreeStyle リブレ使用者に及ぼす心理的影響と療養支援についての文献検討
7. 主介護者の世代別による介護負担感の相違に関する文献検討 ～高齢期介護者、壮年期介護者、ヤングケアラーの三世代に着目して～

母性・小児家族看護学講座

1. ローリスク妊婦に対する産後うつ病の予防的介入に関する文献検討
2. アタッチメント障害の背景要因と効果的な援助に関する文献検討
3. 不妊治療を受ける女性の思いに関する文献検討
4. 医療的ケア児をもつ家族のレスパイトケアに関する文献検討
5. 小児の長期入院に伴う家族の負担とその援助についての文献検討
6. 1型糖尿病患者の思春期における療養行動の困難と対処に関する文献検討
7. ペリネイタルロスを経験した母親のニーズとその支援についての文献検討
8. 父親の育児参加に影響する要因から考察した支援のあり方

地域・精神看護学講座

1. 在宅移行期における患者家族の退院支援に関する思い～ KHcoder による文献検討～
2. 日本におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の文献検討
3. 臨床実習において看護学生が感じるストレスと睡眠の関連についての文献検討
4. 自殺未遂者支援における保健師の役割と連携に関する文献検討
5. コミュニティ・エンパワメントにおける保健師の役割に関する文献検討

生体制御学講座

1. NPC1-Like1 依存性コレステロール輸送における ORP10 の役割
2. AlphaFold を用いた β ラクタマーゼ OXA-24/40 の立体構造予測
3. 脳損傷部位における細胞の死と生
4. オンラインを使った介入が認知機能へ与える効果の検証 ～そこから見えてきた問題点の検討～

病態検査学講座

1. 神経系難病の経過中に敗血症で死亡した病理解剖症例の検討
2. 体位と睡眠の質の関係について ～枕は本当に必要？～
3. 血中可溶性 LDL 受容体と脂肪肝との関連
4. PCR 法を用いた遺伝子多型解析
5. 大腸菌の薬剤感受性試験と耐性機序の解明

令和5年度学級委員

看護学専攻 学級委員

| 入学年度 | 学 年 | 氏 名 | 所属講座 |
|-------|-----|-----------------------|------------|
| 令和5年度 | 1年生 | 山崎 歩 教授 / 金山 俊介 講師 | 母性・小児家族看護学 |
| 令和4年度 | 2年生 | 中條 雅美 教授 / 長谷川 慶幸 助教 | 成人・老人看護学 |
| 令和3年度 | 3年生 | 深田 美香 教授 / 藤原 由記子 講師 | 基礎看護学 |
| 令和2年度 | 4年生 | 金田 由紀子 准教授 / 雑賀 倫子 講師 | 地域・精神看護学 |

検査技術科学専攻 学級委員

| 入学年度 | 学 年 | 氏 名 | 所属講座 |
|-------|-----|----------------------|-------|
| 令和5年度 | 1年生 | 森 徹自 教授 / 高村 歩美 講師 | 生体制御学 |
| 令和4年度 | 2年生 | 臼井 真一 教授 / 松下 倫子 助教 | 病態検査学 |
| 令和3年度 | 3年生 | 二宮 治明 教授 / 仲宗根 眞恵 助教 | 生体制御学 |
| 令和2年度 | 4年生 | 加藤 雅彦 教授 / 石黒 尚子 助教 | 病態検査学 |

※両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあっています。

令和3年度医学部保健学科後援会事業報告

1. 教育助成

- 入学式関連
 - ・入学式
 - ・新入生オリエンテーション
- 大学説明会関連
 - ・オープンキャンパス (web)
- 教育関連
 - ・優秀学生表彰
 - ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭

6. 後援会運営

- ・保健学科広報「アレスコ No.20」発行
- ・後援会役員会 (文書開催)

令和4年度医学部保健学科後援会事業計画

1. 教育助成

- 入学式関連
 - ・入学式
 - ・新入生オリエンテーション
 - ・大学入門ゼミ
- 大学説明会関連
 - ・オープンキャンパス
- 教育関連
 - ・2年次学生と教員との懇談会
 - ・優秀学生表彰
 - ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭

6. 後援会運営

- ・保健学科広報「アレスコ No.21」発行
- ・後援会役員会 (文書開催)

編集後記

アレスコ21号を最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期にわたるなか、様々な影響を受けている方々には心よりお見舞い申し上げます。

ICTの急速な進歩によってデジタル化が進み医学教育環境が大きく変化していく中で、DXは欠かせないものとなっています。今やDXといえば、デジタルトランスフォーメーションを思い浮かべる方も少なくないでしょう。

私が初めてDXという言葉に触れたとき、DX(デキスター)?と勘違いし、「まざらしいなあ」と思ったことがありました。病院で看護師をしていた時代に、簡易血糖測定器で測定した血糖値を意味してDX(デキスター)と記録していたことがあったからです。また、人気タレントのマツコ・DXさんを思い浮かべて、クスツとしたこともありました。

今後も新しい用語が出てくる可能性もあり予測が付きませんが、柔軟に対応できるようにしたいものです。

最後に、この場を借りて、寄稿して下さった皆様、撮影にご協力下さった皆様に心より感謝申し上げます。そして、読者の皆様から、感想などお寄せ頂けたら幸いです。今後とも広報誌アレスコをよろしく願っています。

(保健学科広報委員 三好陽子)

令和4年度 鳥取大学医学部後援会役員

| 役職名 | 氏 名 | 役職指定 | 学生年次 |
|-----|---------|--------|------|
| 会 長 | 森 輝 美 | | 医学5年 |
| 副会長 | 中 村 廣 繁 | 医学部長 | |
| 副会長 | 石 賀 充 | | 生命4年 |
| 副会長 | 野 口 佐智子 | | 看護2年 |
| 理 事 | 小 椋 崇 喜 | | 医学2年 |
| 理 事 | 十 河 卓 史 | | 医学2年 |
| 理 事 | 海 藤 俊 行 | 医学科長 | |
| 理 事 | 島 村 文 枝 | | 生命2年 |
| 理 事 | 畠 義 郎 | 生命科学科長 | |
| 理 事 | 平 川 美絵子 | | 看護2年 |
| 理 事 | 澤 本 太 | | 検査4年 |
| 理 事 | 深 田 美 香 | 保健学科長 | |
| 監 事 | 長 尾 勝 人 | | 医学4年 |
| 監 事 | 加 藤 裕 子 | | 生命2年 |
| 監 事 | 前 田 陽 子 | | 看護1年 |
| 会 計 | 足 立 学 | 学務課長 | |

[発行責任者] 鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会

[発行所] 鳥取大学医学部保健学科 (〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地)

[発行年月] 令和5年2月